

■乗降調査のまとめと個別課題

	項目	まとめ	個別課題
乗降調査	利用実態について	<ul style="list-style-type: none"> ● 各コースとも、65歳以上の高齢者が約7~8割を占める。 ● 各コースとも、「買物」目的の利用が最も多く、次いで「通院・お見舞い」目的の利用が多くなっている。 ● 善師野・塔野地線では週に数日以上利用する人が8割強を占める一方、楽田西部線では約3割に留まっている。 ● わん丸君バスの乗継は、「乗り継ぎしない」が各コースによりバラツキはあるものの約4~8割を占めており、わん丸君バスのみで目的地へアクセスしていることが伺える。 ● わん丸君バス相互の乗継は各コースとも約1~3割となっている。また、名鉄電車との乗継はコースによっては多く存在する。隣接市町のコミュニティバスとの乗継は楽田西部線、内田線、入鹿・羽黒線で約2~4%存在する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● わん丸君バスは、高齢者の買物や通院目的等の移動需要に対応した運行サービスを維持・充実させる必要がある。 ● 路線により、利用頻度や乗継状況は異なることから、路線の利用特性を把握した上で、適切な運行サービスを提供する必要がある。 ● わん丸君バス相互の乗継や名鉄電車などの公共交通相互の乗継利便性を向上させる必要がある。
	バス停別利用者数	<ul style="list-style-type: none"> ● 総合犬山中央病院や犬山駅東口、犬山駅西口の利用が多くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 主要施設におけるバス停では、乗継拠点としての機能・空間を確保することで、公共交通の利便性を向上させる必要がある。
	便別利用者数	<ul style="list-style-type: none"> ● 午前9時や11時前後の便の利用が多くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 昼間帯の移動需要に対応した運行サービスを確保する必要がある